

尊厳死法案、臨時国会への提出目指す- 超党派議連、役員会で確認

2012年09月07日 15:17 キャリアブレイン

<http://www.cabrain.net/news/article/newsId/38074.html>

超党派の国会議員でつくる「尊厳死法制化を考える議員連盟」（会長＝増子輝彦・民主党参院議員）は7日に役員会を開き、今国会への法案の提出を見送り、各党内で引き続き調整を進めた上で、今年秋にも開かれる臨時国会への提出を目指す方針を確認した。

議連は7月末の総会で、15歳以上の終末期の患者に対する延命措置について、経管栄養や人工呼吸器の装着など、新たに延命措置を実施しないとする「不開始」を対象とした「第1案」と、現在行われている措置の「中止」も含めた「第2案」をまとめ、今国会への提出に向け、それぞれ党内手続きを進めることを決めた。

この日の役員会では、その進捗状況それぞれ報告したが、政局の混迷が続いていることもあり、各党の調整は難航している模様だ。増子会長は、「当初の目標であった今国会中の法案提出には至らなかったが、第1案と第2案ができたことは一歩前進だと思っている」と述べ、議論をさらに前に進める意向を示した。

増子会長はまた、2人以上の医師が「終末期」の判断を下すとする法案の条文について、終末期のがん患者に口腔外科医が関わることなどから、日本歯科医師会（日歯）など関連4団体から「歯科医師も加えてほしい」との要望があったことを明らかにした。議連では、10月上旬にも次の総会を開き、日歯などと意見交換する予定だ。【敦賀陽平】



役員会で今後の方針を説明する増子会長＝写真中央＝（7日、衆院第一議員会館）

※「尊厳死の法制化を認めない市民の会」HP

<http://mitomenai.org/>